

1. 調査目的等

小学校1年生から6年生の児童の学力を把握・分析し、学校における教育指導の成果と課題の検証やその改善に役立てる。

2. 学校ごとの指標

各学年の標準偏差値の平均を50.5以上とする。

3. 指標にむけての取組

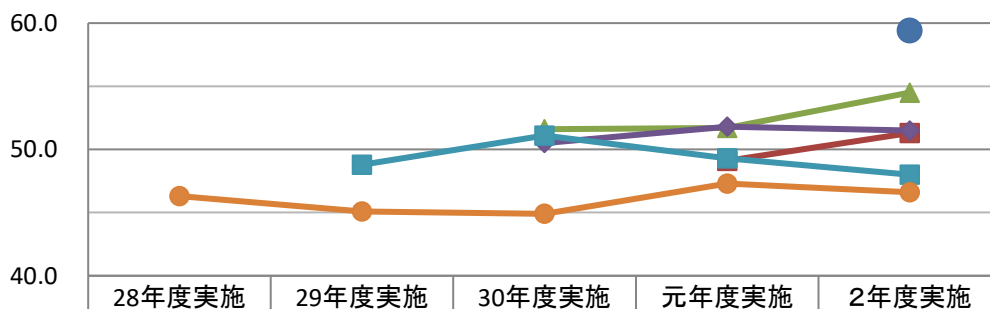
- 各学年の算数科学習に重要単元を設定し、習熟度別分割授業を行う。
- 「問いづくり・思考づくり・価値づくり」のある授業を展開し、研究テーマに基づく授業公開を行う。
- 専科教員による補充学習を行う。
- 家庭学習系統表に基づいた家庭学習を実施する。

4. 調査結果

※学校平均5年間の推移 (標準偏差値50に対して)

年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
本校(A)	48.6	48.4	50.3	49.5	51.8
嘉麻市(B)	50.7	51.5	51.4	51.1	50.9
(A) - (B)	-2.1	-3.1	-1.1	-1.6	0.9
標準偏差値との差 (A) - (50)	-1.4	-1.6	0.3	-0.5	1.8

各学年の推移



	28年度実施	29年度実施	30年度実施	元年度実施	2年度実施
● 2年度1年生					59.4
■ 2年度2年生				49.1	51.3
▲ 2年度3年生			51.6	51.7	54.5
◆ 2年度4年生			50.5	51.8	51.5
■ 2年度5年生		48.8	51.1	49.3	48.0
● 2年度6年生	46.3	45.1	44.9	47.3	46.6

5. 各学校における分析

成果指標である標準偏差値50.5を達成することができた。

○算数科の重要単元において、習熟度別分割授業や単純分割授業を実施したことで、基礎基本が定着していない児童に対する補足的な学習や、理解が十分な児童への発展的な学習など、児童の実態に合わせた学習を充実させることができた。

○「問いづくり・思考づくり・価値づくり」のある授業の日常化を進め、研究テーマに基づく授業公開を行ったことで、主体的に問題解決しようとする姿が見られるようになった。

○専科教員による補充学習を行ったことで、ひらがなや四則計算の定着を図ることができた。

○家庭学習や学級裁量の時間などを使って、意図的・計画的にアシストシートや教科書を基にしたチャレンジプリントを活用したが、基礎基本の定着が不十分な児童が見られた。

6. 各学校における今後の取組

□単元構成を工夫し、形成的評価を生かした指導を充実させるとともに、終末段階にける習熟度別・課題別分割授業を実施する。

- ・複数体制による授業の実施
- ・評価後の個別シートの活用
- ・単元を1サイクルとした短期検証⇒通過率85%

□朝活動やチャレンジタイムにおける基礎基本の定着

- ・宿題の解説
- ・チャレンジプリント
- ・MIM

□家庭学習の習慣化

- ・家庭学習系統表
- ・「10分×学年数+10分」の奨励

7. 嘉麻市教育委員会としての今後の取組

◎今後の取組を具体化し推進できるように、特に次の3点について指導助言及び支援を行うとともに、周知徹底できるように継続的に指導する。

◆嘉麻市学力向上全体構想に設定した学習評価からの授業づくり(指導と評価の一体化)や思考を伴う「書く活動」を核とした授業づくりの推進する。そのために、校内研修での授業観察指導を実施したり、「書く活動ポイント9」や「GoTo授業づくりチェック20」を活用できるように指導助言や支援を行ったりする。

◆嘉麻市学力向上推進委員会に基づく学力向上検証委員会を開催し、単元テスト評価後の個に応じた習熟度別指導を取り入れた指導方法の工夫を推進する。そのために、習熟度別指導の単元づくりや個に応じた補充プリントの活用の仕方について指導する。

◆嘉麻市学力向上全体構想に設定した「家庭学習の取組」を推進する。そのために、個に応じた学習課題の提示を進めるとともに、自学の習慣化に向けた具体的な取組を提示したり各学校の取組のよさを交流する場を設定する。